

医科歯科連携は認知症患者の低栄養予防および認知症進行抑制に貢献できるか (23-5)

主任研究者 中村 純也 国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科部 (歯科医師)

研究要旨

背景

高齢者の認知症推定有病者は2020年時点で602万人と報告されており、65歳以上の6人に1人が認知症であると推定されている。超高齢社会となった本邦において認知症は既に **common disease** となり、国からも様々な政策が打ち出される中、歯科医師は軽度認知機能障害 (Mild Cognitive Impairment:以下 MCI) や認知症の患者に対する対応力の向上や、認知症患者の口腔健康管理を切れ目なく地域で継続していくことが推奨されている。しかしながら、認知症診断後多職種協働支援に歯科医療従事者が常に加わるには至っておらず、認知症分野での医科歯科連携はまだ十分とは言えないのが現状である。本研究の目的は、①認知症患者の状況に応じた継続的な口腔健康管理を地域で実施できる医科歯科連携システムを構築すること、②MCI・認知症患者における低栄養・認知症進行に医科歯科連携が与える影響を明らかにすることである。

方法

国立長寿医療研究センターの認知症疾患医療センター (もの忘れセンター) を受診した高齢者、入院認知症患者を対象とし、横断研究として口腔内環境、口腔機能の調査、歯科的問題に関連する要因の探索を行う。また縦断研究として歯科定期受診や口腔環境と栄養状態、認知機能との関連を調査する。最終目標として MCI または認知症の診断を受けた患者が歯科医療へつながるシステム構築を行う。今年度はもの忘れセンター問診票に「かかりつけ歯科の有無」を追加、2023年度の1年間にももの忘れセンターを受診した患者に対しかかりつけ歯科の有無を調査した。また症例報告によりもの忘れセンター受診患者の細かな特徴を把握し、文献的レビューを行った。

結果

2023年度にももの忘れセンターを受診した初診患者865名の問診票を集計。かかりつけ歯科なしと回答した患者は250名で、全体の28.9%であった。

考察と結論

今回の結果から、もの忘れセンター初診患者の約 30%は認知症診断時にすでにかかりつけ歯科がなく、何らかの理由で歯科治療から離れはじめていることが分かった。診断後から自主的に新たにかかりつけ歯科をつくることは考えにくく、本システムのような切れ目ない口腔健康管理が実施可能となるシステム構築が必要と考えられた。

主任研究者

中村 純也 国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科部 (歯科医師)

分担研究者

村上 正治 国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科部 (歯科医師)

釘宮 嘉浩 国立長寿医療研究センター 歯科口腔外科部 (歯科医師)

A. 研究目的

本研究の目的は、①認知症患者の状況に応じた継続的な口腔健康管理を地域で実施できる医科歯科連携システムを構築すること、②MCI・認知症患者における低栄養・認知症進行に医科歯科連携が与える影響を明らかにすることである。

本研究により有機的な医科歯科連携システムが構築できれば、認知症疾患医療センターと院内歯科の連携モデルとして、全国に先駆けて発信することができる。また、口腔健康管理が低栄養予防や認知症進行抑制に影響があることを示すことができれば、口腔健康管理の必要性を歯科医師はもちろん、他職種に発信する大きなエビデンスとなる。

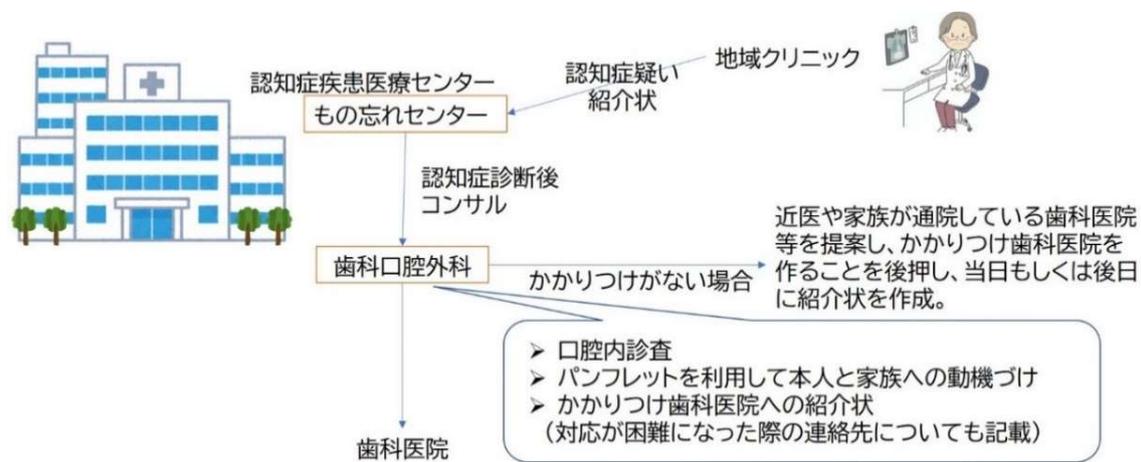
B. 研究方法

国立長寿医療研究センターの認知症疾患医療センター（もの忘れセンター）を受診した高齢者、入院認知症患者を対象とし、横断研究として口腔内環境、口腔機能の調査、歯科的問題に関連する要因の探索を行う。また縦断研究として歯科定期受診や口腔環境と栄養状態、認知機能との関連を調査する。最終目標として下図のような MCI または認知症の診断を受けた患者が歯科医療へつながるシステム構築を目指す。そのため当科が認知症疾患医療センターから地域の歯科医院へ情報をつなぐハブの役割を担い、認知症の容態の変化に応じて、適時・適切に切れ目なく、その時の容態に応じた口腔健康管理が実施可能となるシステムを構築する。

今年度はもの忘れセンター問診票に「かかりつけ歯科の有無」を追加、2023年度の1年間にももの忘れセンターを受診した患者に対し、かかりつけ歯科の有無を調査した。システムの中の認知症診断後コンサルに関しては、マンパワーの問題などからまだ実現できてい

ないが、下図に示すようなパンフレットを作成し、もの忘れセンター初診患者全員に配布するようにした。その中で患者もしくは患者家族の希望があれば当科を受診してもらい（もの忘れ連携枠）、口腔内環境の確認や今後起こりうるリスクを説明の上、歯科受診の重要性を説明した。患者の同意を得た上で、かかりつけ歯科または近医へ認知症病状も踏まえた情報提供を行い、認知症疾患医療センターから地域の歯科医院へ情報をつなぐコネクションの役割を担った。

また、老人保健健康増進等事業、認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理に関する調査研究事業に参画し、モデル事業②として愛知県大府市 認知症疾患医療センターのある一般病院と院内歯科における連携開始例について検討した。（担当：分担研究者 村上）さらに、文献レビューとしてオーラルフレイルと認知機能の関係について調査を行った。（担当：分担研究者 釘宮）



歯科口腔外科からのお知らせ
～認知症の方にもたいせつな歯科受診のすすめ～

お口のなかの環境を整えましょう

近年、口腔内環境を整えることは、全身疾患の予防にもつながっていると知られています。認知症の方も例外ではありません。いつまでも食事をおいしく食べられるように、また口腔内の細菌が歯肉で感染しないように、全身のトラブルをできる限り予防するための歯科受診です。口腔内の環境を整えるためにも認知症の初期段階からの歯科受診をおすすめします。

認知症が進むと口腔管理がむずかしくなります

細かく正確な歯科治療を行うためには、歯科医師の指導にすわり、集中した状態でしばらく口を開けておく必要があります。治療中、歯科医師は患者さんに口を開けたり閉じたりしてもらいながら治療を行うことがほとんどです。それがだんだん難しくなってくると、できる歯科治療も限られてしまいます。少しでも早めに口腔内環境を整えておくことは、今後の財産になるでしょう。

Q1 どんなんことをするのですか？

A1 現在の口腔内環境を評価します
虫歯・歯周病の検査、口腔乾燥状態、唾液力、舌の力
簡単な飲み込み検査、顎全体のレントゲン写真撮影

Q2 お金はどれくらいかかりますか？

A2 保険診療内で行い、料金は処置内容や保険の負担割合に応じて異なります
(歯科の請求書は医師の請求書とは別発行されます)

Q3 かかりつけ歯科医院があっても大丈夫ですか？

A3 現在の口腔内と全身の状態から今後起こりうる口腔のトラブルを予測し、お手紙でかかりつけ歯科医院へ情報提供することができます。
かかりつけ歯科医院にあなたの全身状態を知ってもらうことは、今後の歯科治療の方向性を再考できるきっかけになります。
かかりつけ歯科医院がない方は、歯科治療や歯科衛生士による口腔衛生指導を含む処置や管理を保険診療内で行うことができます。

当センターの歯科口腔外科を受診希望される方は、このパンフレットをご持参のうえ、外来種ロビー階 総合受付へお越しください。

外来診療表

	月	火	水	木	金
9:00	○	○	○	○	○
10:00	○	○	○	○	○
11:00		○	○		

(倫理面への配慮)

本研究は、国立長寿医療研究センターもの忘れセンターを受診した高齢者、入院認知症患者の既存情報のみを用いる後ろ向きの観察研究であるため、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則り、あらかじめ本研究に関する情報を通知・公開し研究対象者等が拒否できる機会を保障する方法（オプトアウト）とする。本研究の対象者となることを希望しない旨の申し出があった場合は、直ちに当該対象者の情報を解析対象から除外し、本研究に使用しないこととする。研究に用いる情報は、プライバシー保護のため匿名化处理（個人を特定可能な情報を削除し、管理用IDを付与）したうえでデータ解析に用いる。

C. 研究結果

もの忘れセンター問診票の一部改変、「かかりつけ歯科の有無」について追加した。2023年度にももの忘れセンターを受診した初診患者の問診票を集計した結果、初診患者数865名中（平均年齢78.2歳±8.3）、かかりつけ歯科ありと回答した患者は565名、かかりつけ歯科なしと回答した患者は250名で全体の28.9%であった。（未記入50名）250名については認知症診断時にすでにかかりつけ歯科がない状態であることが分かった。老人保健健康増進等事業（認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理に関する調査研究事業）の報告と文献レビューについては分担研究報告で詳細を記す。

D. 考察と結論

病院歯科としての役割・貢献

国立長寿医療研究センターは認知症疾患医療センターを持つ一般病院である。全国的には、認知症疾患医療センターの指定を受けている病院のうち、歯科または歯科口腔外科がある病院は半数以下である。本研究は認知症疾患医療センターと歯科、その両方をもつ病院であるからこそ立案できた研究と考える。

一般的に病院歯科では、口腔外科疾患や認知症以外のいわゆる有病者の歯科疾患については病診連携、後方支援など地域との連携が盛んになされている。しかしながら認知症患者に関しては、対応に時間がかかる、対応できる人がいない、などを理由に診療を行っていない病院歯科も少なくない。それぞれの病院歯科に地域で果たすべき病院機能があり、一概にすべての病院歯科が認知症患者を受け入れるべき、とは言い切れない。

一方で、認知症疾患医療センターは認知症の鑑別診断だけでなく診断後の初期支援や地域連携拠点機能を担っており、鑑別診断目的に受診する患者には、認知症初期で通常歯科対応が可能なる者も多く含まれている。認知症初期段階の生活の混乱に関連する支援ニーズは多岐にわたるが、その時点で口腔内が無症状である多くのケースで歯科ニーズが顕在化されにくい点は、当センターにおいてももの忘れセンター医師との相談でも指摘された。認知

症が進行する前から継続的な歯科との関りが必要であることは、認知症施策推進大綱にも書かれている通りである。

したがって、認知症疾患医療センター、歯科がともに存在する一般病院の歯科においては、地域の歯科医院へ情報をつなぐコネクションの役割を担い、認知症の容態の変化に応じて、切れ目なく、口腔健康管理が実施できるように、認知症患者の口腔管理のハブとしての役割を果たすべきではないだろうか。そのためには、まず歯科、認知症疾患医療センターがともに存在する病院の歯科が現在どのような連携をしているか、認知症患者をどの程度診療できるマンパワー、キャパシティがあるかを調査する必要があると思われる。その上でそれぞれの地域に合った連携システムを構築する必要があると考えられた。

課題と今後の展開

今回、我々は地域で実施できる認知症患者のための医科歯科連携システムを構築することを目的とし、同一病院内の認知症疾患医療センターと歯科との連携を開始した。問診票集計の結果から、もの忘れセンター初診患者の約30%は認知症診断時にすでにかかりつけ歯科がなく、何らかの理由で歯科治療から離れはじめていることが分かった。診断後から自主的に新たにかかりつけ歯科をつくることは考えにくく、今後口腔内は崩壊の一途をたどる可能性がある。連携システムの構築は喫緊の課題といえる。また、連携のトライアルにより、医師側からのコンサルトの難しさや人的・時間的負担についての課題が浮き彫りとなった。この試みによって、同一病院内であっても認知症患者に関する医科歯科連携は容易でないことが明らかとなった。認知症患者にシームレスな歯科医療を提供するためには、診断後支援の段階から歯科関係者が関わることが不可欠である。認知症疾患医療センターから地域の歯科医院へ情報をつなぐコネクションとなり、認知症の容態の変化に応じて適時・適切に切れ目なく、その時の容態に応じた口腔健康管理が実施可能となるシステムを構築するため、もの忘れセンター運営会議で顔が見える関係を作りつつ課題をひとつひとつ解決し、認知症患者に真に寄り添ったシステムを組み立てていきたい。さらに、来年度以降、すでに立案している横断研究としての口腔内環境、口腔機能の調査、歯科の問題に関連する要因の探索、縦断研究としての歯科定期受診や口腔環境と栄養状態、認知機能との関連を調査していきたいと考えている。

結論

認知症診断時にかかりつけ歯科がない患者は一定数存在し、本システムのような切れ目ない口腔健康管理が実施可能となるシステムが必要である。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kazuaki Uchida, Yuya Ueda, Junya Nakamura, Shunsuke Murata, Tatsuya Endo, Koji Otani, Rei Ono, Effect of car use on social frailty among community-dwelling older adults in rural areas. *Journal of Transport & Health*.2023. 30 101609-101609.

- 2) Haruhi Encho, Kazuaki Uchida, Junya Nakamura, Sachiko Mizuta, Toshihiro Akisue, Hisatomo Kowa, Rei Ono. Association between locomotive syndrome and anemia among community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*. 2023 Jun;23(6):426-429.

- 3) Sachiko Mizuta, Kazuaki Uchida, Ryuichi Sawa, Junya Nakamura, Haruhi Encho, Toshihiro Akisue, Rei Ono. Context of walking and loneliness among community-dwelling older adults: a cross-sectional study. *BMC geriatrics* 2023. 23(1) 326.

- 4) Junya Nakamura, Kiyomasa Nakatsuka, Kazuaki Uchida, Toshihiro Akisue, Megumi Maeda, Fumiko Murata, Haruhisa Fukuda, Rei Ono. Analysis of post-extraction bleeding in patients taking antithrombotic therapy using data from the longevity improvement and fair evidence study. *Gerodontology*. 2024 Jun;41(2):269-275.

- 5) Masaharu Murakami, Hirohiko Hirano, Masanori Iwasaki, Maki Shirobe, Ayako Edahiro, Shuichi Obuchi, Hisashi Kawai, Yoshinori Fujiwara, Kazushige Ihara, Keiko Motokawa. Development of a multiple masticatory function model based on the evaluation of sarcopenia: A cross-sectional survey of the Otassha Study. *Archives of Oral Biology*. 155.2023

- 6) 水田早智子、内田一彰、中村純也、円丁春陽、芝野航大、野口敦司、松本昭英、秋末敏宏、小野玲 外来血液透析患者における透析日および非透析日の疲労感と歩数の関連
日本腎臓リハビリテーション学会誌 2024/2

2. 学会発表

- 1) 老人保健健康増進等事業 認知症の状況に応じた高齢者の継続的な口腔機能管理に関する調査研究事業
「モデル事業②愛知県大府市 認知症疾患医療センターのある一般病院と院内歯科における連携開始例について」

- 2) 中村純也、前田圭介、真野濤、高木彩菜、前田篤史、石河貴大、西原恵司、佐竹昭介、山岡朗子 オーラルフレイルや口腔機能低下症への対応は？—パタカラ体操を中心に—第 38 回日本臨床栄養代謝学会 (JSPEN) シンポジウム指定発表 2023/5/9
- 3) Kota Shibano, Kazuaki Uchida, Junya Nakamura, Haruhi Entyo, Sachiko Miwa, Kiyomasa Nakatsuka, Toshihiro Akisue, Haruhisa Fukuda, Rei Ono. Association between knee arthroplasty and incidence of dementia in older adults with knee osteoarthritis: LIFE Study. IAGG 2023. 2023/6/14
- 4) 佐藤 穂香、中野 有生、釘宮 嘉浩、村上 正治、中村 純也 回復期リハビリテーション病棟の高齢患者に対し病気関連不安認知尺度を応用し歯科衛生士が介入を行った症例 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023/6/16
- 5) 中村純也、足立了平 増悪する開口障害から破傷風を疑い緊急対応を行った症例 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023/6/16
- 6) 五十嵐 憲太郎、栗谷川 輝、目黒 郁美、鈴木 到、釘宮 嘉浩、石井 智浩、伊藤 誠康、有川 量崇、岩崎 正則、平野 浩彦、河相 安彦 静電容量型感圧センサーシートを用いた咬合力測定信頼性および成人の基準値の検討～予備的検討～ 日本老年歯科医学会第 34 回学術大会 2023/6/17
- 7) 村上正治、釘宮嘉浩、中村純也、岩崎正則、本川佳子、枝広あや子、白部麻樹、河合恒、大淵修一、藤原佳典、井原一成、平野浩彦 咀嚼機能の客観評価と主観評価の乖離と将来のサルコペニア発症リスクとの関連性について -お達者研究- 第 10 回 日本サルコペニア・フレイル学会大会 2023/11/5
- 8) 釘宮 嘉浩 口から始めるフレイル予防：口腔機能の視点から 第 10 回日本予防理学療法学会学術大会 2023/10/29
- 9) 釘宮 嘉浩、岩崎 正則、白部 麻樹、本川 佳子、枝広 あや子、渡邊 裕、五十嵐 憲太郎、阿部 巧、横山 友里、北村 明彦、村山 洋史、平野 浩彦 地域在住高齢者における色変わりガムの測定値の分布 第 16 回日本口腔検査学会学術大会 2023/11/5
- 10) 釘宮 嘉浩、村上 正治、中野 有生、佐藤 穂香、永井 彩絵、木本 統、中村 純也 静電容量型感圧センサーシートを用いた咬合力測定装置の検者内信頼性の検討：予備的研究 愛知学院大学歯学会第 103 回学術大会 2023/12/10

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし